

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	新潟大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ニイガタダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	森林環境インターンシップ
	学部・研究科等名	農学部
	担当教職員名・役職	森口喜成准教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	24
	受入企業等数	18
	受入企業等名	受入企業から事前了承が得られなかったため、未記入。
	インターンシップの分類	7.中小企業でのインターンシップ.8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事.2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	就業体験を通じて、森林科学の関連科目が実社会でどのように応用されているかを学ぶとともに、職業観、勤労観を身につけ、キャリア形成意識ならびに就業力を高めます。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している.3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している.5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している.8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	就業体験を通じて、森林科学の関連科目が実社会でどのように応用されているかを学ぶとともに、職業観、勤労観を身につけ、キャリア形成意識ならびに就業力を高めます。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている.4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している.5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	学外で企画されているインターンシップマナー研修に参加するように指導している。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている.4.その他
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	学内での報告会を実施している。ただし、この報告会に受入団体等の担当者の参加はない。
	3-2-3.該当するモニタリング	
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	履歴書の添削を通して、動機や目標の確認を行う。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ報告書、報告会を通して振り返りを実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている.2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習先での実習状況(50%)と事業概要等の事前調査(20%)、実習内容についての報告書・発表(30%)によって成績を評価します。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	2.週間(平日換算で10日間)
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入団体、企業には可能な限り2週間で計画してもらえるように依頼している。例年、夏休業中にインターンシップを実施しているため連続した実施期間を確保することに支障はない。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している.7.その他

※ ⑥	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	学科教員がインターンシップ後に企業を訪問し、受入に係る課題、実習内容などについて聞き取りは行っている。
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	PBL型インターンシップの場合、受入先と事前に研修内容と達成目標を協議している。学科での発表会とは別に受入先での発表会も行っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2016/0A/0A_160A3414_ja_JP.html">http://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2016/0A/0A_160A3414_ja_JP.html</a>
問 い 合 わ せ 先	大学等名	新潟大学
	担当部署名	学務部連携教育支援課
	担当者役職名	専門職員
	担当者氏名	橋本謙司
	電話番号	025-262-6309
	メールアドレス	renkeikyoiku@adm.niigata-u.ac.jp